

若越の林業



越前町檜津地係（H28年度利用間伐実施）（国道365号線沿い）

コミュニティ林業で利用間伐を行った場所です。間伐後2年以上が経過し下層植生が茂り、生き生きとした森林になっています。

このような森林があちこちで見られるよう、これからもコミュニティ林業の推進などで集約化を行い、間伐を進めていきます。

（丹南農林総合事務所丹生林業・木材活用課）

2019 **9** No. 721

ふくいの森林・林業のあり方検討会について

県では、平成27年3月に本県の森林・林業の指針となる「ふくいの森林・林業基本計画」を策定し、平成27年度から31年度までの5年間に取組むべき方策をしめしています。

しかし、森林環境税の創設など森林・林業・木材産業を取り巻く情勢が大きく変化していることから、現計画を今年度中に見直すこととしています。

このため、ふくいの森林・林業のあり方検討会を開催し、本県森林・林業・木材産業の目指すべき姿や今後5年間に展開していく施策を検討していきます。

第1回目は、7月10日に開催し、現行計画の成果や現状に対する意見など交わしました。次回は、10月9日に開催予定で、森林・林業の目指す姿および今後の森林・林業施策について討論します。

(県産材活用課 林業戦略グループ)

今後の森林・林業政策について *検討会資料

《目指す姿》 育てる林業から、儲ける林業・稼げる林業に
《目標》 県産材生産量 19万^m3 (H30) → 25万^m3 (R6)

《現状と課題》

◆県産材の供給面

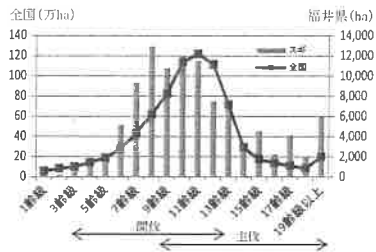
【現状】

- ・ 建築材料として利用可能な林齢の人工林が年々増加、成長量は毎年70万^m3

【課題】

- ・ これまで間伐が主体であり、資源循環のためには主伐・再造林を進めることが必要
- ・ 一方、間伐が必要な林分も過半以上を占め、間伐を更に進めることも必要
- ・ 森林所有者の山林への関心は低下しており、施業地の確保に労力と時間を要する状況

【国有林のスギ人工林年齢構成】



◆県産材の需要面

【現状】

- ・ A材需要は県内新築住宅需要と連動し横ばい
- ・ B材需要のほぼ全てが県外合板工場向け
- ・ C材需要はバイオマス発電所の稼働により安定的に推移

【課題】

- ・ 今後は人口減少による住宅着工減が予想され、A材需要は減少の見込み
- ・ 県内にB材工場がないため、価格の低いC材需要の比率が高い状況となっており、原木全体としての価値が向上しない状況

【原木の流れ】



◆森林の利活用

【現状】

- ・ 里山トレイルなど森林空間の利活用による新産業の創出を目指した新たな動き
- ・ 県産特産林産物のブランド化やきのこ生産・加工施設整備による生産額の向上

【里山トレイル】



◆生活環境と森林との関わり

【現状】

- ・ 豪雨災害等、激甚化する災害が全国各地で多発
- ・ 2009年の全国植樹祭の開催を契機に県民運動が着実に浸透

《今後のあり方（新たに取り組むもの）》

森を活かすプロジェクト ~充実しつつある森林資源の積極的な利用~

○主伐・再造林の推進

- ・ 山ざわで条件の良い所は「資源循環の森」として主伐・再造林を推進
- ・ 主伐・再造林の一体型施業による低コスト化の推進
- ・ コンテナ苗や早生樹も含めた苗木供給体制の整備



○間伐の加速化

- ・ 森林環境譲与税の活用による市町が主体の間伐の推進
- ・ ICT技術(航空レーザー等)を活用した資源量把握・境界明確化の推進、コミュニティ林業や所有権の集約化による森林施業地の確保

○担い手の確保・育成

- ・ 若者に魅力的な林業とするため、機械化や安全装備の充実による生産性向上、労働環境改善を推進
- ・ 一事業体当たりの事業量を拡大し、林業従事者の所得を向上

木を活かすプロジェクト ~原木の価値に応じた木材需要の創出・拡大~

○攻めの県産材の販路開拓 (A材対策)

- ・ 県内だけでなく都市圏や海外の販路を積極的に開拓

○木材加工流通体制の強化 (B材対策)

- ・ 大規模工場(原木消費量10万^m3クラス)の整備によるB材需要の大幅な拡大

○新たな分野における利用拡大(A材対策)

- ・ 炭素繊維との複合化など新たな加工技術を活用し、異業種×県産材による新商品開発を推進

	現状(H30)		目標(R6)		原木の価値
	19万 ^m 3	8万	25万 ^m 3	8万	
A材	5万	8万	10~14千四 ^m 3	炭材用	
B材	3万	8万	8~11千四 ^m 3	合板・集成材用	
C材	11万	11万	3~5千四 ^m 3	パルプ用・バイオマス燃料用	
原木	11~16億円	16~23億円			

森に親しみ、森を守るプロジェクト ~森林の多様な活用と森林保全の推進~

○森林ビジネスの創出・強化

- ・ 身近に森を感じてもらうため森林空間を観光や保養のフィールドとして利活用する「森林サービス産業」を創出・強化
- ・ 県産特産林産物のブランド力の強化と生産額の向上

○暮らしを守る森づくりの推進

- ・ ICT技術の活用による土砂崩れなどの事前防災・減災対策に向けた治山対策の推進
- ・ 針広混交林化等による獣害・病害虫に強い森づくりの推進

○緑と花の県民運動を継続的に展開

- ・ 総合グリーンセンターに木とふれあえる木育施設を整備
- ・ 主要駅や観光地周辺を中心とした花いっぱい運動の推進

熊川葛振興会

葛粉の生産を復活させ、地道な活動で「熊川葛」の知名度を向上させた若狭町熊川地区にある熊川葛振興会。その取り組みが評価され、平成30年度にはFBCかがやき基金かがやき賞を受賞しました。

かがやき基金の受賞は振興会員にとっても大きな励みになり、「まだまだ気張らなあかな」と意欲を燃

やしています。いただいた応援金は、

生産施設の改修等に活用しています。

林業水産部では、若狭町や地元団

体等と協力しながら振興会の取り組みを応援しています。平成31年1月

には、立命館大学の学生が若狭町熊

川宿の食や文化を体験するインター

ンシップ事業の一環で熊川葛につい

て学んでもらいました。

学生のみなさんからは、「葛粉を

買って食べたこともないし、未知の

世界だ。」「なぜ高価なのがわかつ

た」との感想や、「振興会の思いや背

景を伝えた上で体験をしてもらう必

要がある」と体験を通じ、観光振興策

を考案してくれました。

また、林業水産部では、葛の新芽や

花を使用したお茶の商品化に向け、

(嶺南振興局林業水産部)

若狭の山へ行ってきました。

先進地視察やイベント等での試作品

販売やパネル作成など支援を行って

きました。

葛の新芽や花などには血流改善な

どの薬効が期待されるため、おいし

くて体に良いお茶をみなさまへお届

けできそうです。9月は葛の花の開

花シーズン。美しい紫の花を摘みに

管内だより



▲ 振興会会長に指導を受けながら熊川葛を調理する学生ら



▲ 林業水産部から熊川葛の歴史や取り組みについて学ぶ学生ら



▲ イベントで販売を行う振興会と林業水産部



▶ パネル



造林関係コンクールが行われました

造林は林業の基本であり、地域産業の振興に大きな役割をもつのみならず、国土保全、環境緑化等の公益的機能の発揮および木材生産を通じて公共福祉にも大きく貢献しています。

そのため、県では良質材生産の造林技術を奨励するとともに、造林意欲の向上を図るため、優れた優良造林地等を表彰し、その内容を紹介することによって、元気で活力のある緑豊かな森林づくりに対する関心を高めるため、「造林関係コンクール」を実施しています。「優良苗畑コンクール」と「優良造林地コンクール」の2部門を設けており、今回優良造林地コンクールの受賞者が選ばれましたので、ご紹介します。

【優良造林地コンクール】

・松原 一誠 氏（永平寺町）

先代が植栽した山林を受け継ぎ、大切に管理されています。適期に間伐・枝打ち作業を実施しており、手入れが行き届いています。集落からほど近い場所に位置しており、地域住民の目に触れる機会も多く、模範的な造林地として地域林業の振興に貢献されています。



森林・林業・木材を学ぶ研修会、講習会情報【9月、10月開催】

研修会、講習会の名称	月 日	時 間	場 所	申込み
自伐林家の育成 一校弘・造材編一	9月4日(水)	13:00～15:30	丹生郡越前町茗荷地係	③
新たな森林病虫害等の防除方法	9月10日(火)	13:30～15:30	県 総合グリーンセンター (ふくい林業研修センター)	③
ふくいの里山ビジネス塾 一原木マイタケー	9月29日(日)	14:00～16:00	福井市 美山地区	①
自伐林家の育成 一搬出編一	10月1日(火)	13:00～15:30	丹生郡越前町茗荷地係	③
親子で花の寄せ植え体験	10月5日(土) ～6日(日)	13:00～14:00	県 総合グリーンセンター	②
花の寄せ植えづくり講習会	10月12日(土)	13:30～15:00	県 総合グリーンセンター	②
きのこ料理教室 【受講料@ 1,000円】× 20名	10月20日(日)	10:00～12:00	御食国若狭おばま文化館 キッチンスタジオ	③
野生きのこ観察講座 【受講料@ 500円】× 30名	10月23日(水)	13:30～15:30	ふくい農業ビジネスセンター (越前市安養寺町 142-27-1)	③
ふくいの里山ビジネス塾 一木炭一	10月27日(日)	調整中	福井市内	①
親子林業体験③ 一きのこの観察会一 【小学生等親子等約 20組(40名程度)】	10月27日(日)	9:30～15:00	県 総合グリーンセンター	③

※日程などについては都合により変更する場合がありますので「申込み・お問い合わせ先」に確認願います。

番号(仮)	申込み・お問合せ先	電話番号	FAX番号
①	県 森づくり課 森林活用グループ	0776-20-0443	0776-20-0655
②	県 総合グリーンセンター 緑と花の県民運動推進グループ	0776-43-6501	0776-67-0004
③	(公社)ふくい農林水産支援センター 人材・研修支援課	0776-21-8315	0776-23-0931
【全般に対するお問合せ先】	県 総合グリーンセンター 技術指導グループ	0776-43-6503	0776-67-0004

New Face

林業の

坂井森林組合 山本 海夏人 さん



グラップルを操作する山本さん



間伐材をトラックへ積み込む

今回は、利用間伐の現場で活躍している、坂井森林組合の山本 海夏人さん(20歳)をご紹介します。
山本さんは、あわら市熊坂の出身で、祖父に連れられて所有林で薪をとるなど、幼少のころから山に親しみをもち、県内の高校を卒業後、地域の山林を管理することを希望して、平成30年4月に、坂井森林組合へ就職しました。

山本さんは、チェーンソーで木を伐採する作業を希望し、同組合で間伐材の搬出を専門に行っている作業班に配属されました。現場では、先輩方から作業のノウハウを教えてもらいながら、山で汗をかいて頑張っており、期待の若手です。
最近、グラップルやフォワーダといった重機も操作しており、伐採から搬出、運搬まで幅広く作業を手掛けています。
今後は、様々な経験を積んでもらい、坂井地域の林業を担う、一人前の林業男子になっていただきたいと思っています。

(坂井農林総合事務所林業部
林業・木材活用課)

頑張る

自伐林家・事業体



(株)井波木材

代表取締役 井波 吉博 (山林舎 代表 井波雅博)

今年から新たに森林整備を開始する井波木材を紹介します。

井波木材は住宅の設計から、製材、施工まで一貫して行う地域工務店として活躍しています。

昨年頃から、地元の森林所有者から家の裏山を整備してほしいとの依頼が増し、鯖江市管内には林業事業体がないこともあり、これは仕事になると思ったのが本格的に森林整備に取組むきっかけとなりました。

今年の4月、専務(長男の雅博氏)が代表となって地元の有志4人で「山林舎」というグループを立ち上げ、作業道の開設や材の搬出に取り組んでいるところです。

将来は、地元でバイオマス燃料を使用してもらえるよう公共施設等へ働きかけをしていきたいというのが専務の夢で、限られた森林資源を地域で循環できるような仕組みづくりを目指しています。

(丹南農林総合事務所 林業部 林業・木材活用課)



▲後列左から2人目が吉博社長、後列右から2人目が雅博専務



▲将来、山を管理するためにも道づくりは必要



ふくい生まれの『極上マイタケ』を

開発しています！

総合グリーンセンター 広瀬 直人

はじめに

県では、地域性豊かな特用林産物の生産拡大を推進しています。マイタケについては、大野市で新たな生産施設が整備され、生産量の拡大が期待されており、生産者からは、ブランド力のあるマイタケ品種が求められています。

そこで、本研究では、県内で採集したマイタケ野生菌株から、形状、色彩、食味に優れ、福井の自然に育まれた野性味ある菌株を選抜して、より付加価値の高い県産マイタケを品種開発することを目的としています。今回は、大野市の協力のもと採集した野生マイタケ103菌株について、一次選抜試験を行ったので報告します。

試験の内容について

選抜の目標値を表1に示します。一次選抜では、全6項目の目標値で80%を超えている菌株を選抜する基準としました。

試験に供する菌床資材には、広葉樹オガ粉と栄養材(乾燥ビール粕、乾燥おから)を使用しました。

栽培の方法は、マイタケ菌株を接種した後、温度22℃、暗室で35日間培養後、照度約200ルクスで

点灯して原基形成を促しました。原基形成後、発生室に移し、温度17℃、照度約1000ルクスで子実体を生育させ、収穫後、選抜基準に基づき調査しました。

試験の結果

採集した野生マイタケ103菌株のうち、一次選抜の基準を超えた菌株は3菌株でした。その中で最も優秀であった菌株は、M57株でした(写真1)。M57株の特性を

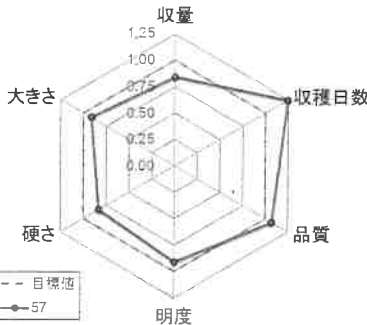
表1 選抜の目標値

目標値
①収量：500g以上/2.5kg菌床
②収穫日数：70日以内
③品質：基準値4以上 (菌さんの分化不良10%以下)
④色：基準値4以下 (標準土色 Hue 10YR 明度)
⑤硬さ：基準値6以上 (菌さんを指で触った硬さ)
⑥大きさ：200mm以上

一次選抜の基準
全6項目、目標値の80%以上である菌株 (2次選抜試験に供する株)



写真1 選抜されたM57株



項目	目標値	M57	判定
収量 (g/菌床)	500	421.3	△
収穫日数 (日)	70	56.3	◎
品質	4	4.3	◎
明度	4	4.4	○
硬さ	6	5.0	△
大きさ (mm)	200	183.6	○

◎：目標値
○：目標値90%
△：目標値80%

図1 M57株の特性を示したレーダーチャート

図1に示します。収穫日数および品質は目標値を超えており、明度および大きさは目標値の90%に達していました。しかし、収量と硬さは目標値の80%程度であり、今後、これらの項目を重点的に改良していくことが必要です。

まとめ

今回、一次選抜試験により、優秀な菌株を選抜することができました。今後は、これらの菌株を用いて交配を行い、食味の目標を追加した全7項目において目標値を超える優秀な菌株が開発できるよう、2次選抜試験をすすめていく予定です。

緑の募金に

ご協力を

お願いします

この募金活動は、「緑の募金」による森林整備等の推進に関する法律に基づいて行われており、今年(2019年)用の国土緑化運動標語「その手からつなげる未来 広がる緑」を掲げ、募金活動がはじまります。

募金の期間はつぎのとおりです。

春期 3月22日～5月31日
秋期 9月1日～10月31日

経済情勢の厳しいなかですが、緑の大切さをご理解いただき、みなさまの温かいご支援をお願い申し上げます。

公益社団法人

福井県緑化推進委員会





県森連だより

令和元年度 林業担い手スキルアップ支援事業 (作業道開設技術の向上研修) 開催

去る8月5～9日の5日間、令和元年度林業担い手スキルアップ支援事業(作業道開設技術の向上研修)(公財)福井県林業従事者確保育成基金)が開催され、県内森林組合等これから作業道開設を手掛ける4名の方が参加しました。

の利用法、丸太組み、洗越し及びヘアピンカーブ等)の講義、実習が行われ、開設技術を身に着けようと熱心に受講する姿が見受けられました。5日間と長丁場な研修でしたが、講師の方から貴重な技術・情報を得るとともに、各参加者との意見交換も行われ、大変充実した研修となりました。

1日目は座学として、福井森林組合 中出 勳 参事を講師として招き「森林作業道の目的・構造等の基本土工」、「丸太組工、洗越し工、ヘアピンカーブ等の応用土工」、「路線設定(図上設計)」等について講義を行いました、2日目からは実技として、(株)大義林研 大泉雅人代表を講師として招き、現地踏査、線形の決定、支障木伐採、開設技術(土質、段切り・段盛り、表土や根株

り、表土や根株



▲開設技術実習の様子



▲1日目座学研修の様子

森連の取組みについて

新たな森林管理システムを活かした林業の成長産業化と森林資源の適切な管理を進めるため、国、各県・市町村において様々な取り組みが実施されておりありますが、そのような中、県森連においても、平成30年8月にIC Tスマート精密林業等対策室を設置し、現在、県の事業等も活用しながら、スマート林業の実施等を進めているところですが、特に、森林施業の効率化・省力化や需要に応じた高度な木材生産に必要とされる資源段階における森林情報収集や、情報の共有化に向けた対応として、航空レーザ計測並びにUAV等の活用について関係各位と検討、協力しながら進め、森林情報(立木・地形情報)の把握によ

る林業の活性化につなげたいと考えています。
(福井県森林組合連合会)

ICT等の先端技術を活用した実践的取組へ

<p>施業集約化の効率化・省力化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施業集約化に向けた各作業に共有化された様々な森林情報を活用 <p>情報収集や現地調査の軽減と効率化</p>	<p>経営の効率性・採算性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用して生産現場の進捗状況や丸太のストック等を集計・分析 <p>低コストで効率的な林業経営を実現</p>	<p>需給マッチングの円滑化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山元の供給情報と川下の需給情報をICTを活用してリアルタイムで共有 <p>需要に応じた木材生産が可能</p>
<p>森林情報の高度化・共有化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リモートセンシング技術等を活用して共有すべき森林情報(地形、蓄積、施業履歴、路網情報等)を整備し、関係者間で共有 <p>森林クラウド 地図・路網情報 森林資源情報</p>		

(株)ジツタは森林組合様の業務に特化したシステムを開発し続けています。

森林測量システム

お客様の視点にたったご提案を心掛けています。

弊社測量システムは、森林・地籍・GISでの調査・測量の簡素化を目的として開発されました。GPSとコンパスの混在使用が可能で、代表的なデジタルレーザーコンパス TruPulse360に対応しています。PC用ソフトウェア Assist Office にセットされた計画図や地形図などの座標を持った背景地図を外業用システムへ切り出します。現場で見慣れた地図を背景に調査・測量し、データの形状等を確認しながらの作業が行えます。今までは事務所に帰ってからしか確認できなかった測量精度や面積、形状の全てが現場で把握できます。コンパス測量にも対応しており、放射・逆放射・前方交会・2方向からの周囲測量などができます。Shape ファイルなどのGISフォーマットにも対応していますので、GISシステムへの取り込みも容易にできます。森林測量・地籍調査・GISデータ収集などの分野で効率化が図れます。

株式会社ジツタ
〒790-0003 愛媛県松山市三番町4丁目9-12
TEL 089-931-7175 FAX 089-934-7701 URL <http://www.jitta.co.jp>

お問い合わせは株式会社ジツタ
福井県森林組合連合会またはお近くの森林組合さまへ

RICOH

Customer's Customer Success
～お客様のお客様にまで届く価値を創出する～

リコージャパン株式会社

福井支社／福井市御幸3丁目7-15

【営業品目】 林業土木機械・索道工事設計施工・荷役機械・ワイヤロープ・チェーンソー・組合枝打ハシゴ・各種工具

北村商事株式会社

〒910-0854 福井市御幸4丁目7番7号
TEL (0776) 27-3100 FAX (0776) 22-7270



Nakajima Kenki

- 建設機械・舗装機械・除雪機械
- 高性能林業機械
- フォークリフト
- 各種 販売・整備・レンタル

高性能林業機械の販売・整備・レンタル

株式会社中島建機

〒福井市下六条町35号25番地1

☎ 0776-41-0115

☎ 0776-41-0775



松枯れ予防
樹幹注入剤

マッケンジー

ランテクター

ニホンジカ専用忌避剤

卵から生まれた忌避剤が樹木をニホンジカの食害から守る

大同商事株式会社

本社 東京都港区浜松町1丁目10番8号(野田ビル)
〒105-0013 電話03(5470)8491

FAX03(5470)8495

大阪営業所 大阪市中央区道修町1丁目2番2号(花房ビル)

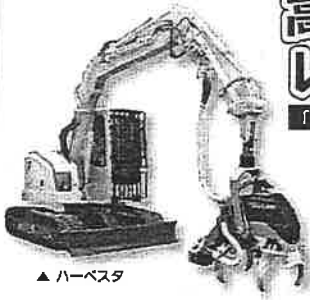
〒541-0045 電話06(6231)2819

FAX06(6231)7045

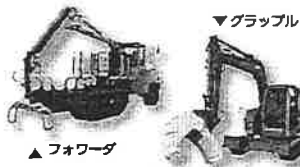
● レンタルのニッケン

高性能林業機械 レンタルします!

「J-Forest 様との業務提携を行っております」



▲ハーベスタ



▲フォワーダ

▼グラブ

福井営業所 〒918-8016 福井県福井市江端町一字大町境 24

TEL: 0776-33-7200 FAX: 0776-33-7222

“森林づくりのお手伝い”

【営業品目】

肥料、農薬、森林除草剤、農林業資材、農業土木

日栄商事株式会社

福井支店

〒918-8231 福井市問屋町4丁目1104番地

TEL (0776) 24-1217 (代)

FAX (0776) 24-1202 番

事業内容

- ・ソフトウェア開発
- ・ソリューション
- ・クラウド・インフラ
- ・プロダクト
- ・ハードウェア
- ・アプリ開発
- ・WEB制作
- ・コミュニティマガジン発行



株式会社 ビジュアルソフト

【本社】
福井市八幡巻町314番地
TEL.0776-56-3636(代表) FAX.0776-56-3672
E-MAIL: info@vss.co.jp URL: http://www.vss.co.jp

営業所
・敦賀営業所
・東京営業所
・名古屋営業所
・金沢営業所

海外旅行・国内旅行・旅行企画・JR切符・航空券・
バス・ホテル・旅館の手配

ASUKA TRAVEL AGENCY

(有) アスカ トラベル

〒910-0016 福井市大宮4丁目10-17
芦原街道沿い

TEL (0776) 29-0012

FAX (0776) 29-0023

編集 福井県森林組合連合会 福井県山林協会
〒918-8557 福井市江端20-1 福井県農林会議館ビル ☎(0776) 38-0345
編集発行所 福井県山林協会
〒910-0003 福井市松本3丁目16-10 ☎(0776) 23-3753

印刷所 創文堂印刷(株)
定価 1部50円(送料別)

会員の配布する本誌の購読料は、会費に含まれています。